

# 製造業の人材確保へ

## 行政、企業、学生ら方策を探る

沼津

県内外の教育機関や自治体、経済団体が地域社会の活性化、人材育成のための教育改革に取り組む「静岡COC十連携協議会」(事務局・静岡大)は31日、沼津市のプラサヴェルデで、製造業の人材確保策と学生の就職動向を探るシンポジウムを開いた。

COC十東部ブロック幹事校の沼津高専の4年生200人を含む約320人が聴講した。同校制御情報工学科の長縄一智教授が司会を務め、富士宮市の植松康夫商工振興課長、エステック(清水町)の鈴木誠一社長らの登壇し、沼津高専5年市出身)は「大学に編入するつもりだった

が、インターンシップを通じて気持ちが就職に傾いた」と明かした。愛爾希(大連)科技 居(中国)の土が基調講演し、自身の海外勤務経験から得た教訓を紹介した。



製造業の人材確保策について討議した「COC+シンポジウム」  
=31日午後、沼津市のプラサヴェルデ